

私たちは「ハードコートへの変更に反対します」

ひなた宮崎県総合運動公園テニスコートの改修において

「全24面のハードコート仕様への改修」ではなく

現状と同じ「砂入り人工芝コート」での改修を求めます

ひなた宮崎県総合運動公園庭球場は、24面が同じサーフェスで一体となっていることから、プレーの面でも大会運営の面でも県内外の競技団体や選手、愛好者からの評価が高く、地域の大会から全国規模の大会はもちろん、日々の活動場所として、ソフトテニス、硬式テニスを問わず、高い稼働率となっています。

2027年に開催される国民スポーツ大会に向けた、同コートの改修に伴い、宮崎県テニス協会からの要望により「ハードコートへの変更」が検討されています。

ソフトテニス競技においては、国際大会やその予選等の一部の例外を除き、天皇杯や全国高校総体をはじめとした全国規模の大会から地域の大会まで、ほぼ全ての大会は、砂入り人工芝コートで実施されていることが現状です。

私たちソフトテニス連盟としましても、県内にハードコートが少ないことは承知していますし、一部の競技者にとりまして、競技力向上のためにハードコートが必要であることは理解しています。

ただ、同庭球場がハードコートになることで、県内で唯一、九州でも最大級の24面の規模を誇る大会会場が実質的になくなることとなり、そうした状況になることを、県内外の多くの競技者、愛好者が大変危惧しているところです。

競技力向上、健康維持増進はもちろん、競技を通じたコミュニティの形成にも、引き続き活用できるよう、ソフトテニス・硬式テニスのコートとして最も共存できるコートである、現状と同じ、砂入り人工芝コートに改修していただくことを強く要望するものです。

**宮崎県ソフトテニス連盟は、近い将来の「ハードコート新設」に向けた
関係各所への働きかけを、共に連携して実施していきましょう！と
宮崎県テニス協会に提案しています！**